

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	骨軟部腫瘍コース（インテンシブコース）						
対象者	医学研究科大学院生、一般医師、後期研修医						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋骨格系に発生する腫瘍に対する正確な診断や集学的医療の実践を行える能力</li> <li>・転移性骨腫瘍に対する正確な診断や集学的医療の実践を行える能力</li> <li>・筋骨格系に発生する腫瘍の術前、術後のリハビリテーションを計画できる能力</li> <li>・AYA世代、壮年、高齢者など、各世代の骨軟部腫瘍患者の病状と社会的背景に応じた社会復帰に向けての支援を行う能力</li> </ul>						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本教育プログラム・コースで定める科目について、合計2000時間以上を履修し、試験に合格すること。</li> </ul>						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;  整形外科講義・実習  放射線科（診断部・治療部）・病理診断部・腫瘍センター（腫瘍内科（消化器内科）・骨転移外来）・リハビリテーション科の講義・実習</p> <p>&lt;選択科目&gt;  小児科（腫瘍）、皮膚科（腫瘍）、形成外科、緩和ケア科、産科（妊孕性温存）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	主に整形外科が診療を担当する骨軟部腫瘍には原発性骨軟部腫瘍と転移性骨軟部腫瘍が存在し、体幹から四肢末梢まであらゆる部位に発生し、腫瘍による症状、あるいは治療に伴い筋骨格系に様々な症状を呈しうる。診断は、画像診断、病理診断が必須であり、放射線科・病理部と連携して行われる。治療は、手術だけにとどまらず、化学療法、放射線治療など科横断的に、集学的に行われる。対象となる患者も小児からいわゆるAYA世代、壮年、高齢者まで非常に幅広く、患者の社会復帰を目的として様々な試みがなされている。筋骨格系に発生する腫瘍というKey wordで、科横断的な様々な取り組みに参加できる、非常に独創的なプログラムになりうる。						
指導体制	骨軟部腫瘍の診断・治療の中心的な役割を担う、整形外科、放射線診断部・治療部、病理診断部、リハビリテーション科を必修科目とする。 病院実習を中心に、各科の骨軟部腫瘍に関する講義を受講してもらう。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	修了後は、慶應義塾大学病院や各地域中核病院の腫瘍整形外科医として活躍することが期待される。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10